

『日本水草図鑑』重版における修正箇所

角 野 康 郎

1994年に出版した拙著『日本水草図鑑』は順調に部数が伸び、このほど3刷となった。将来的には登載種の追加、内容の改訂、分布資料の追加を柱とする改訂増補版をあらためて出版したいと考えており、重版に際しては内容の改訂はしないという方針でいる。しかし、その後の研究で明らかになった誤りの修正と、分類学的取り扱いが変更された分類群に関する当該文献の追加だけは行い、読者の便を図っている。

以下に、初版から3刷にかけて修正もしくは追加した点をまとめておくので参考にいただきたい。

1. ミズニラ属 (8p): Takamiya et al. (1997) を文献に追加し、日本産ミズニラ属が次の4種1雑種1変種に整理されたことにふれた。

ヒメミズニラ	<i>Isoetes asiatica</i>
ミズニラ	<i>I. japonica</i>
ミズニラモドキ	<i>I. pseudojaponica</i> *
ミチノクミズニラ	<i>I. × michinokuana</i> *
シナミズニラ	<i>I. sinensis</i> var. <i>sinensis</i>
オオバシナミズニラ	<i>I. sinensis</i> var. <i>coreana</i> *

*印の3分類群が追加されたわけであるが、その特徴には言及していない。

文献: Takamiya, M., M. Watanabe and K. Ono, 1997. Biosystematic studies on the genus *Isoetes* (Isoetaceae) in Japan. IV. Morphology and anatomy of sporophytes, phytogeography and taxonomy. Acta Phytotax. Geobot. 48: 89-122.

2. ガシャモク (37p): 学名の列記のうち, *P.*

lucens L. var. *dentatus* (Hagstr.) Hara を削除し *P. lucens* L. var. *teganumensis* (Makino) Hara を加えた。これは、私の不注意と思いこみによるミスで村田源先生からの問い合わせで判明した。*P. lucens* L. var. *dentatus* (Hagstr.) Hara という学名が命名規約上からも成立しないことは村田 (1997) 「近畿地方から絶滅した植物 2」 (関西自然保護機構会報 19: 45-47) に指摘されている。

3. カワツルモの分布図 (48p): 八丈島のプロットを削除。小笠原に打つべき点が八丈島に打たれたもの。伊豆諸島から採集されたカワツルモの標本は、私の知る限り存在しない。

4. コウキクサ (73p): 広義のコウキクサが3種に分けられることは初版でもふれたが、その結果を正式に発表した Hirahaya and Kadono (1995) を引用した (2刷)。また *L. turionifera* Landolt の和名を最初は「エゾコウキクサ」としたが、上記の文献で和名を「キタグニコウキクサ」と改めたのにもない、2刷以降は同名を用いている。これは上記の論文を植物分類地理に投稿した際、論文校閲者のひとりから「エゾ」という呼称を用いることに対する疑問を暗に提示されたことによる。「エゾ」を冠した植物名は多数あるが、この呼称がどのような歴史的状況の中で用いられてきたかを調べる中で、現在、このような名前を無批判に使うことは不適切であると考え「キタグニコウキクサ」と改めた次第である。

文献: Hirahaya, M. and Y. Kadono, 1995. Biosystematic study of *Lemna minor* L. sensu lato (Lemnaceae) in Japan

with special reference to allozymic variation. Acta Phytotax. Geobot. 46: 117-129.

5. マツバイ (92p): マツバイを「一年草」としていたが、3刷から「多年草」に訂正した。宮部満君の指摘により再検討した結果である。

6. タシロカワゴケソウ (124p): 初版の時点では学名を裸名としていたが、Kadono and Usui (1995) によって正式に新種として記載されたので、学名を *Cladopus austro-osumiensis* Kadono et Usui とした。

文献: Kadono, Y and N. Usui, 1995.

Cladopus austro-osumiensis (Podostemaceae), a new rheophyte from Japan. Acta Phytotax. Geobot. 46:

131-135.

7. ヒメシロアサザ (141p): 初版には「本種は多年草…」とした文献があるが、筆者は種子で越冬する一年草の状態しか観察したことがない」と書いた。その後柴山弓季さんの研究により、産地により一年草の生活史をもつ場合と多年草として生活する場合のいずれもあることが判明したので、そのように訂正した。なお、日本産のヒメシロアサザは産地により形態にも明らかな差が認められ、遺伝的分化が進んでいることも確認された。この点は別途発表する予定である(柴山・角野、準備中)。

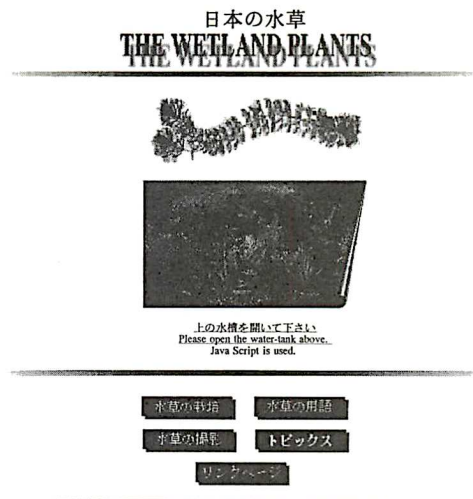
今後とも改訂に向けてさまざまな疑問を解決していきたいと考えているので、ご指摘やご意見をお待ちしている。

水草に関するホームページ

インターネットを利用してさまざまな情報にアクセスしておられる会員の方も少なくないと思われるが、水草に関するホームページをふたつ紹介しよう。

1. 日本の水草 (<http://www.asahi-net.or.jp/~gy9y-mmi/>)

先ほど(6月19日午後2時)アクセスすると17,167人目と出たので、もうずいぶんよく知られたホームページなのだろう。東京の桃井義則氏が開設しておられるものである。私は桃井氏がどういう方か存じ上げないが、内容の正確さから見て相当の通と見た。日本産の「水辺の草」約60種と食虫植物が、写真ならびに簡潔な説明で紹介されている。水草の栽培や撮影についても自身の経験



をもとに参考になることが述べられている。各地の水辺情報へのリンクもある。